

禁煙・節酒宣言

頭頸部癌にかからないために

禁煙・節酒宣言 頭頸部癌にかからないために

頭頸部癌とは口腔癌、鼻・副鼻腔癌、咽頭・喉頭癌、唾液腺・甲状腺癌など首から上の臓器（脳と眼を除く）に発生する癌をいいます。日本頭頸部癌学会の調査では、頭頸部癌の多くは口腔、咽頭・喉頭領域や食道および肺に重複多発する傾向があり、さらに重要なことは喫煙と過度の飲酒がその発生の強い誘因として関わっていることが判明しています。このように、共通の誘因により、いくつかの領域にまたがって広く発癌する現象は広域発癌 field cancerization といわれ、最近注目されてきました。この点については医療界にはもちろん、国民の皆様にも、もっと広く認識していただきたいと考えています。

喫煙が虚血性心疾患や種々の癌など多くの疾患の誘因であり、受動喫煙も含めて健康に悪影響を及ぼすことは近年の科学的根拠の蓄積により今や周知の事柄です。平成 15 年 5 月「健康増進法」の発効および平成 16 年 6 月 WHO「たばこ規制枠組み条約」の批准などで、わが国においても具体的な対策が進み、さまざまな学会・団体からも禁煙宣言が出されています。

飲酒に関しても、平成 15 年には WHO により中・下咽頭癌、口腔癌、食道癌が飲酒関連癌とされています。また日本人においては、アルコールが代謝される過程で産生される毒性の強いアセトアルデヒドが蓄積しやすい体質のひとが多く、そうしたひとでは少量の飲酒でも健康に悪い影響が現れ、より飲酒関連癌にかかりやすいことがわかっています。

日本頭頸部癌学会 およびその全会員は、頭頸部癌の診断・治療とそれに関わる研究を行ってきました。これらの成果から、多くの頭頸部癌の誘因が喫煙と過度の飲酒によるものであることが判明しています。これらの誘因を排除するために、日本頭頸部癌学会およびその各会員は、以下に述べる諸活動を実行することを宣言します。また国民の皆様には喫煙と過度の飲酒を戒め、禁煙・節酒を心がけるようお願いいたします。

日本頭頸部癌学会として

【学会の取り組み】

- (1) 国民の皆様に対する禁煙・節酒の啓発に努めます。
- (2) 喫煙・飲酒と頭頸部癌との関わりについての研究をさらに進めます。
- (3) 学術大会場内を全面禁煙とします。

【各学会員の取り組み】

- (4) 国民の皆様に対して喫煙と過度の飲酒を戒め、頭頸部の飲酒関連癌患者に対して禁煙・禁酒を奨励します。
- (5) 学会員の所属機関においては、受動喫煙の防止のために施設等の全面禁煙に率先して協力し、その推進に努めます。
- (6) 禁煙指導を実施し、あるいは実施を支援します。
- (7) 全会員およびその運営に参加する者は、喫煙と過度の飲酒を戒め、禁煙・節酒を心がけます。

【わが国の喫煙対策への要望】

- (8) タバコ税の大幅引き上げに賛成し、税の用途を禁煙推進に活用することを要望します。
- (9) 未成年者喫煙の防止のためタバコ自動販売機の廃止を要望します。

平成 18 年 6 月 15 日

日本頭頸部癌学会 理事長

岸本 誠司

(日本頭頸部癌学会禁煙・節酒宣言起草委員会)

構成委員 岸本 誠司(東京医科歯科大学頭頸部外科)
吉野 邦俊(大阪府立成人病センター耳鼻咽喉科)
池田 恢(国立がんセンター中央病院放射線治療部)
白砂 兼光(九州大学大学院口腔顎顔面外科学分野)
林崎 勝武(医療法人社団菊田会習志野第一病院頭頸科)
櫻庭 実(国立がんセンター東病院形成外科)
浅井 昌大(国立がんセンター中央病院頭頸科)
大島 明(大阪府立成人病センター調査部)
斉川 雅久(国立がんセンター東病院頭頸科)
須長 寛(福井大学耳鼻咽喉科)
津熊 秀明(大阪府立成人病センター調査部)
宮原 裕(大阪府立総合医療センター耳鼻咽喉科)
武藤 学(国立がんセンター東病院消化管科)
渡邊 昭仁(恵佑会札幌病院耳鼻咽喉科)

日本頭頸部癌学会は、頭頸部癌と総称される首から上の癌の診断・治療に関する研究を推進している、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医、歯科口腔外科医、放射線科医、形成外科医、病理医その他の多領域の専門職種で構成されている学会です。